

# わらびてし



奥州市水沢真城にある中林下遺跡は、経営体育成基盤整備事業(真城南地区)に伴い、令和2・3年の2箇年にわたり発掘調査を行いました。調査の結果、平安時代の掘立柱建物32棟や堀で囲まれた戦国時代末の2つの居館跡と、それらに伴う遺物が確認されました。

写真は平安時代の掘立柱建物群です。その特徴から、朝廷によって造られた胆沢城に関連する公的な施設の可能性があります。

(文化財専門員・北田 勲)

## 主な内容

- ◆ 令和3年度の発掘調査成果  
(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- ◆ 注目された遺跡
- ◆ 東日本大震災関連復興調査から見た三陸の歴史  
Part 1 (沿岸南部)
- ◆ 令和3年度イベント報告

【所報名について】「わらびてし」は蕨手刀(わらびてとう)に由来しています。蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨(さわらび)の芽を巻いた状態に似ていることからこう呼ばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

## 令和3年度の発掘調査成果

令和3年度の発掘調査は、12遺跡、面積34,396㎡を対象に実施しました。昨年度復興関連調査が完了して、今年度から通常の開発行為に伴う調査のみとなったことから、センター創設以来最も少ない面積となりました。調査地は北上盆地と沿岸北部に多く、3市2町2村に及んでいます。

### 縄文時代

野田村中平遺跡、平清水Ⅱ遺跡で縄文時代前期、普代村力持遺跡で中期、八幡平市柁沢Ⅱ遺跡で後期の集落跡を調査しました。中平遺跡では、竪穴住居を26棟確認しましたが、遺物が極端に少ないことが注目されます。力持遺跡は、中期の大集落として知られていますが、今回も調査面積は少ないものの、竪穴住居や貯蔵穴など多くの遺構が重なって見つかりました。

陥し穴は多くの遺跡で見つかっています。花巻市大谷地Ⅲ遺跡では楕円形、洋野町サンニヤⅢ遺跡では溝状、中平遺跡、平清水Ⅱ遺跡では、両方の形状の陥し穴を検出しました。

### 奈良時代

大谷地Ⅲ遺跡で奈良時代の集落跡を調査しました。集落の北端を区画するとみられる弧状の溝や、大型の竪穴住居と小型の住居状遺構などを囲む環状の溝が検出されました。遺物から、蝦夷と朝廷との攻防が続いた8世紀末の集落と見られ、蝦夷の儀器とされる赤彩球胴甕や赤彩の坏が出土したことが注目されます。

### 平安時代

今年度は6遺跡を調査しました。奥州市の明神下遺跡は、昨年度からの調査で90棟を超える竪穴住居が見つかりました。工房とみられる竪穴もあり、炉の跡や鉄滓の出土、鉄製品の多さから鍛冶を行っていた村と見られます。緑釉陶器など一般集落では珍しい遺物もあり、胆沢城の関与する村であったことが想定されます。

奥州市の中林下遺跡は掘立柱建物で構成されています。建物の柱穴は、一辺40～150cmの

方形で、3間×2間程度の建物が主ですが、5間×3間の大型の建物や2間×2間の小型の建物もあり、建物の方向からいくつかの時期の変遷があったことが窺えます。このような建物のようすから、地方官衙に関連する遺跡と見られます。

野田村中平遺跡は「野田竪穴住居跡群」として知られる県史跡の北東側にあり、竪穴住居24棟などを確認しました。西側に隣接する平清水Ⅱ遺跡からも集落が見つかっています。

このほか、奥州市館遺跡、北上川左岸の自然堤防上に立地する紫波町境遺跡で集落を調査しました。

### 中世

奥州市中林下遺跡で戦国時代の居館跡2か所が見つかりました。昨年度二重の堀に囲まれた一辺50mほどの空間が検出されていましたが、今年度は堀内側の精査を行い、門、通路の側溝、掘立柱建物のおびただしい数の柱穴などを確認しました。この場所からさらに50mほど南東からもほぼ同じ規模の居館跡がもう1箇所見つけられました。いずれも堀内部に池を配することや堀の形状など構成が似通っており、出土遺物から戦国時代のものと思われる。

### まとめ

遺構数、遺物ともに多くありませんでしたが、特に奈良、平安時代の遺跡で蝦夷と律令政府による在地支配の様相を示す興味深い成果が得られました。中平遺跡、サンニヤⅢ遺跡は来年度も調査が継続されます。

(調査課)



縄文時代前期、平安時代の集落（中平遺跡）



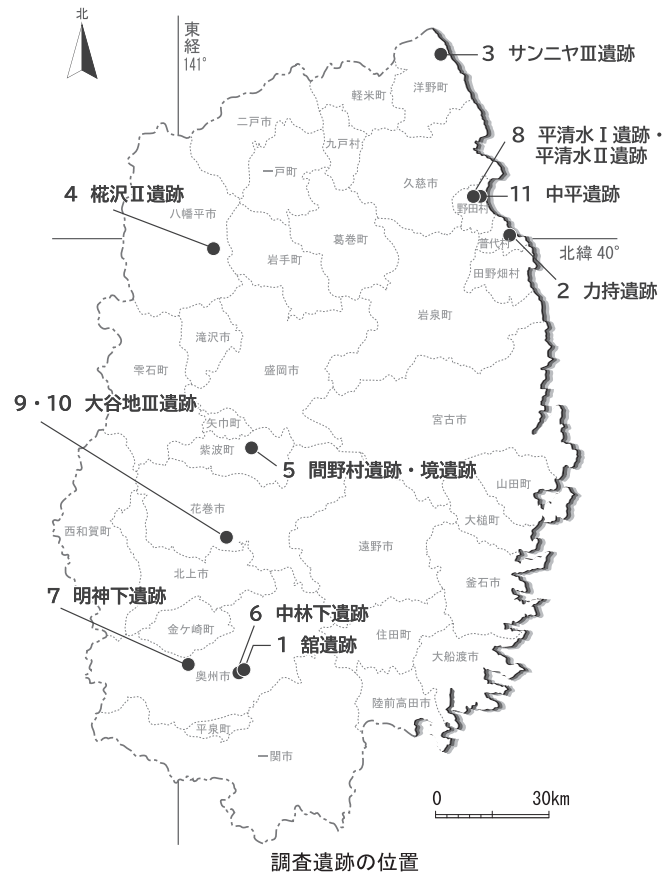
縄文時代の陥し穴（大谷地Ⅲ遺跡）



竪穴住居などを囲む環状の溝（大谷地Ⅲ遺跡）



平安時代の竪穴住居（明神下遺跡）



調査遺跡の位置

● 令和3年度 発掘調査一覧 ●

No.	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	主な時代	開発事業名
1	館遺跡	奥州市	1,000	平安	水沢東バイパス整備事業
2	力持遺跡	普代村	178	縄文	三陸沿岸道路建設事業
3	サンニヤⅢ遺跡	洋野町	1,882	縄文	三陸沿岸道路建設事業
4	栲沢Ⅱ遺跡	八幡平市	900	縄文	産業廃棄物処理施設整備事業
5	間野村遺跡・境遺跡	紫波町	620	平安	主要地方道紫波江繋線星山地区道路改良工事
6	中林下遺跡	奥州市	8,220	平安	経営体育成基盤整備事業(真城南地区)
7	明神下遺跡	奥州市	7,930	平安	経営体育成基盤整備事業(若柳中部地区)
8	平清水Ⅰ遺跡・平清水Ⅱ遺跡	野田村	2,949	縄文・平安	農業競争力強化基盤整備事業(泉沢・中平地区)
9	大谷地Ⅲ遺跡	花巻市	5,982	縄文・奈良	(仮称)花巻PAインターチェンジ整備事業
10	大谷地Ⅲ遺跡	花巻市	105	奈良	都市計画道路山の神諏訪線道路整備事業
11	中平遺跡	野田村	4,630	縄文・平安	野田小学校建設事業
合計 11 件 12 遺跡			34,396		

## 注目された遺跡

遠野市

みやしろよん

# 宮代IV遺跡・宮代経塚

みやしろきょうづか

【 10世紀・12世紀 】

宮代IV遺跡・宮代経塚は、猿ヶ石川の北西部尾根上にあります。平成29年の岩石採取事業の照会に伴う分布調査によって新たに発見されました。

調査によって、10世紀初頭の竪穴住居跡2棟、竪穴遺構1棟、12世紀後半の経塚3基、現代の炭窯1基といった遺構や、台付鉢、中国産磁器である龍泉窯青磁<sup>りゅうせんようせいじ</sup>、国産陶器である渥美窯産壺<sup>あつみようさん</sup>等の遺物が見つかりました。

塚は、周辺よりも30m高い見晴らしの良い尾根の先端部に築かれており、龍泉窯青磁と渥美窯産壺が見つかったことから、12世紀後半の経塚であると考えられます。この時期の経塚は、遠野地域で初めての発見になります。経容器である渥美窯産壺とその蓋として転用されたと見られる龍泉窯青磁は、表土付近からバラバラの状態で見つかり、盗掘された際に捨てられた破

片が残っていたようです。

竪穴住居跡と竪穴遺構は、埋土から十和田a火山灰が、床面から大量の焼土と炭化材が見つかったことから、同時期に建物が焼け、埋まったようです。そのうち1軒の竪穴住居跡からは、とても珍しい台付鉢が見つかっており、祭祀用具と考えられます。

(遠野市教育委員会 佐藤 直紀)



2号経塚の葺石の様子

釜石市

# 橋野高炉跡

はしのこうろあと

橋野高炉跡は、鉄鉱石を製錬し、銑鉄を生産した橋野鉄鉱山の高炉場であり、安政5(1858)年建設着手～明治27(1894)年廃業まで経営者を代えながらも36年間操業された遺跡です。

釜石市では、岩手県指定文化財『紙本 両鉄鉱山御山内並高炉之図』が描かれた文久年間から明治27年の廃業時期までの鉱山集落内での建物遺構等を把握するために、整備計画に基づき平成20年度から一番高炉より順次調査し、今年度は御日払所跡を発掘調査しました。

調査の結果、明治期の平屋跡(御日払所)68坪と板倉跡15坪を検出し、明治25・27年の建物登記の規模と概ね一致することを確認しました。遺構付近からは明治末～大正初期の陶磁器やガラス瓶などが出土しており、釜石鉱山田中製鐵所に払下げ以降も建物が使用されていた可能性

【 江戸時代末期～明治時代中期 】

があります。平屋の礎石は昭和初期の居宅建設の際に一部再利用され、また調査区南側では整地造成により、礎石の大半が遺存していないことを確認しました。

今後調査を継続していき、鉱山集落内の様相について明らかにしていきたいです。

(釜石市文化スポーツ部世界遺産課 高橋 岳)



御日払所調査区全景(上が東)

平泉町

かんじざいおういんあと  
観自在王院跡第13次調査

【 12世紀 】

観自在王院跡は、奥州藤原氏二代基衡の夫人が建立した寺院の跡で毛越寺の東隣に位置しています。昨年(令和3年)の13次調査は、観自在王院西側で接する車宿くるまやどりと道路跡を対象としました。

車宿は貴人の乗り物である牛車ぎっしゃの駐車場です。『吾妻鏡』には、「観自在王院の西面には南北方向に並ぶ数十字の車宿がある。」と書かれており、昭和52年の調査では東西4.6m(2間)、南北方向27.5m(10間)と南北方向に細長い牛車10台分の車宿が見つっています。今回の調査では北から5番目の柱列の再調査を行い、位置や残存状況を確認しました。柱は径1m、深さ90cmの穴の中に直径30cmの柱を立てており、柱の通りも良いことが分かりました。

周囲に雨落溝が巡り完結していることや、『吾

妻鏡』の記載から車宿と考えていますが、毛越寺、観自在王院に隣接するのに相応しい重厚な建物であったと考えられます。

道路面の調査では、3～15cmの石で構成された石敷を確認しました。

(平泉町教育委員会 鈴木 江利子・島原 弘征)



44年ぶりに再確認した車宿の柱列

洋野町

にしひらないいち  
西平内 I 遺跡

【 縄文時代後期初頭 】

西平内 I 遺跡は、太平洋岸から西へ1.9km、青森県境にほど近い、渋谷川と伝吉沢が合流する段丘上に位置します。

三陸沿岸道路建設に伴い、平成26年、同27年に発掘調査が実施され、弧状に並ぶ石列1基、集石遺構59基、掘立柱建物跡5棟、竪穴住居跡5棟のほか、多くの遺構が発見されました。その後平成30年に町史跡に指定されています。弧状に並ぶ石列は、令和元年度の発掘調査で、環状列石であることが明らかとなりました。

また、掘立柱建物跡5棟は、弧状の石列の外側を沿うように発見されました。昨年度と今年度の調査でも柱の穴の跡が見つかりました。掘立柱建物は環状列石を囲むように建っていたことが想定されます。

集石遺構は、数個～10数個の石が集合した状

態のもので、遺跡周辺にある石のほか、海にある石も運ばれて作られています。今年度の調査でも新たに集石遺構が多数見つかりました。

今後の調査により、西平内 I 遺跡の内容が明らかになることが期待されます。

(洋野町教育委員会 千田 政博)



新たに見つかった集石遺構

# 東日本大震災関連復興調査から見えた 三陸の歴史 Part1 (沿岸南部)

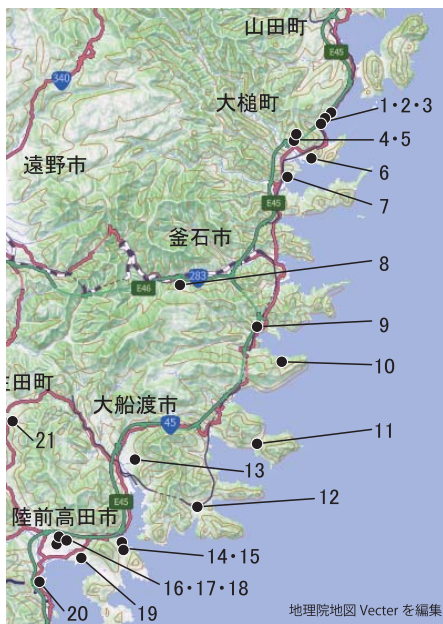
甚大な被害をもたらした震災発生から11年目に入ります。この間、沿岸各地において継続して進めてきた復興発掘調査の成果を3回シリーズでご紹介します。

## 復興調査の概要

東日本大震災後、多岐にわたる復興事業が沿岸各地で展開されます。それに伴い、やむを得ず消滅する遺跡について、記録保存を目的とした発掘調査(以下、復興調査)も大規模に進められました。当センターでも正確、かつ迅速な調査に取り組んでいます。関係者の尽力により復

興調査が収束に向かっている中で、今後は新たに得られた知見を地域の歴史に還元していく努力が求められています。

今回は本誌面で復興調査の成果を地域別に総括します。第1回は沿岸南部、大槌町～陸前高田市を対象としてご紹介します。



	遺跡名	調査年度	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	報告書
大槌町	1 松磯遺跡	2013、14	三陸沿岸道路	4,050	660集
	2 田屋遺跡	2014、15、16、17	三陸沿岸道路	11,550	704集
	3 白石遺跡	2015	三陸沿岸道路	550	661集
	4 迫田 I 遺跡	2016	三陸沿岸道路	2,600	688集
	5 挾田館跡	2016、17	三陸沿岸道路	7,010	706集
	6 赤浜 II 遺跡	2014、15	土地区画整理事業赤浜地区	3,495	690集
釜石市	7 小滝沢遺跡	2013	土地区画整理事業片岸地区	1,060	630集
	8 不動ノ滝遺跡	2013	東北横断道	874	630集
	9 小白浜遺跡	2015、16、17	三陸沿岸道路	2,492	705集
大船渡市	10 屋形遺跡	2012	漁業集落防災強化事業大石地区	700	629集
	11 中野遺跡	2012、13	防災集団移転促進事業崎浜地区	12,050	636集
	12 宮野貝塚	2014	警察施設災害復旧事業	375	649集
	13 長谷堂貝塚	2016、17	市道猿石線他2路線改良工事	1,750	719集
	14 峯岸遺跡	2013	防災集団移転促進事業峯岸地区	4,512	637集
陸前高田市	15 内田貝塚	2017	主要地方道大船渡広田陸前高田線事業	3,027	707集
	16 高田城跡	2014、15	土地区画整理事業高田西地区	49,000	691集
	17 花館跡	2012、13	土地造成事業(市事業)	9,700	638集
	18 西和野 I 遺跡	2015	土地区画整理事業高台IV関連	12,775	669集
	19 米崎城跡	2019	防潮堤関連付帯道路建設事業	2,770	721集
	20 上長部館跡	2013	三陸沿岸道路	6,950	630集
住田町	21 世田米城跡	2016	地域連携道路整備事業	9,970	678集

## 1 縄文時代の集落

岩手県内での発掘調査で最も目にするのは縄文時代の遺跡です。沿岸南部の復興調査でも多くの縄文時代集落跡の調査が行われました。

縄文時代前期では、峯岸遺跡(大船渡市)、内田貝塚(大船渡市)等で集落跡が調査されており、また<sup>はさまだ</sup>迫田 I 遺跡(大槌町)、田屋遺跡(大槌町)では前期前半の遺物包含層から遺物が多数出土しています。これに後続する中期では、70棟の竪穴住居を検出した中野遺跡(大船渡市)をはじめとして、小白浜遺跡(釜石市)、赤浜 II 遺跡(大



中野遺跡 竪穴住居群(縄文時代中期)

槌町)、長谷堂貝塚・宮野貝塚(大船渡市)、松磯遺跡(大槌町)において、中期後葉(約4500年程前)を中心とした時期の竪穴住居や土坑群が多数調査され、遺構の形態や炉の構造等が時代と共に変化する様子を明らかにしています。

また沿岸南部は全国でも有数の縄文貝塚集中地帯として知られていますが、今回も内田貝塚・長谷堂貝塚(大船渡市)の調査で縄文時代前期～中期の貝層が検出され、多様な動物遺存体、骨角貝製品等の出土がありました。生業活動の復元に貴重な資料となります。



内田貝塚 貝層中の魚骨出土状況(縄文時代前期)

## ② 平安時代の集落、製鉄関連遺跡

古代の集落跡の調査事例では、迫田Ⅰ遺跡、小滝沢遺跡(釜石市)の調査事例がある他に、西和野Ⅰ遺跡(陸前高田市)では平安時代の墓域と推測される方形周溝が見つかりました。

沿岸の特徴ともなっている古代の製鉄関連遺跡としては、田屋遺跡(大槌町)で斜面に並列する製錬炉8基、排滓場、木炭窯が調査されています。炉の特徴と科学的年代測定結果により11～12世紀中頃に操業されたと考えられます。



田屋遺跡 製錬炉(平安時代後期)

## ③ 中世～戦国時代の城館跡

北から狭田館跡(大槌町)、世田米城跡(住田町)、米崎城跡・高田城跡・花館跡・上長部館跡(陸前高田市)での発掘調査が行われました。いずれも15世紀後半から16世紀の戦国期を中心とした城館跡で、今回の調査により大規模な普請の様相や、築城から廃絶までの年代が特定される等の成果が上がっています。



高田城跡 調査区空撮(戦国時代)

## まとめ

上記以外の時代に関わるものでは、不動ノ滝遺跡(釜石市)の縄文晩期末～弥生時代初頭の遺物出土、西和野Ⅰ遺跡の続縄文土器出土、米崎城跡の古墳時代須恵器出土等が挙げられます。

5市町で行った復興調査は21遺跡、調査面積

合計147,200㎡にのぼり、調査内容は19冊の発掘調査報告書にまとめられました。得られた調査成果を、地域の皆様に還元していく努力を継続していきたいと思っております。

(主幹兼課長補佐 高木 晃)

## 令和3年度 イベントの報告

### 復興発掘調査展⑤宮古市

令和3年9月23日(木)から26日(日)の4日間、宮古市民文化会館で復興発掘調査展を開催しました。埋蔵文化財センターは、東日本大震災からの復興事業に伴い発掘した遺跡の調査成果を、順次各市町村で公開しています。宮古市では防災集団移転促進事業や三陸沿岸道路建設などに関連して30遺跡の発掘調査を行いました。今回は、宮古市教育委員会が調査した遺跡の出土品も展示しました。

来場された方からは「地域の特色がかなり良くわかる発掘成果であったと感じました。」「遺跡によって出土品も違うことを実感し、宮古市内の各遺跡の内容を一度に見ることができて良かった。」などの感想が寄せられました。



宮古市民文化会館

### 埋蔵文化財公開講座 遺跡報告会

令和4年1月29日(土)、埋蔵文化財公開講座・遺跡報告会を岩手県民情報センターアイーナ小田島組☆ほ〜るで開催しました。第一部の公開講座では「38年戦争とエミシの赤い土器」と題して北上市立博物館館長杉本良先生に御講演いただきました。第二部は発掘調査遺跡報告会を開催し、今年度発掘された遺跡の調査成果を発表しました。



杉本良先生の講演

### 第42回埋蔵文化財展

令和4年1月28日(金)から30日(日)の3日間、岩手県民情報センター5階のギャラリーアイーナで開催しました。公開講座に関連した北上市内の遺跡から出土した赤彩土器、遺跡報告会で報告された遺跡の出土品、復興発掘調査展in宮古市で展示した出土品などを展示し、訪れた方々が見学していました。



展示見学風景

発行 岩手県立埋蔵文化財センター  
編集 集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185  
電話：019-638-9001  
E-Mail：i-maibun@echna.ne.jp  
URL：http://www.iwate-maibun.jp/  
発行日 令和4年2月28日  
印刷 東京カラー印刷株式会社